

山麓部の公園に出かけてみました。

すっかり葉を落としたクヌギやコナラの落葉樹林、その林床には茶色の落ち葉が降り積もっています。

年始早々、このように物寂しげなところを訪れるのには理由があります。

「フユシャク」という蛾の仲間を探しに来たのです。

この鱗翅目シャクガ科の「蛾」の中には、多くの昆虫が活動を停止している真冬に「羽化」する種類がいるからです。

しかも、口が退化しており何も食べないだけでなく、なんと雌は翅も退化しており飛ぶことができないという、非常に特異な進化を遂げたグループなのです。

その多くは夜行性なのですが、中には「クロスジフユエダシャク」のように、昼間にヒラヒラと飛び回る（もちろん雄だけ）種もいるのです。

残念ながらこの日は「フユシャク」を撮影することはできませんでした（飛んでいる雄を見ただけです）が、産卵中の「カメムシ」を数匹、見つけることができました。

こんな寒い中で産卵していたのは「クヌギカメムシ」という種です。

体長は12mmほどで、成虫は5～12月に見られると図鑑などに掲載されているのですが、年が明けてもまだ産卵している個体がいるのですね。

これほどの寒さに耐えることができるのであれば、成虫で越冬できそうに思うのですが、交尾後に雄が、そして産卵後に雌がその寿命を終えるようです...

### 写真 : クヌギカメムシ

産卵場所を探しているのか、木の幹を歩いていました。

### 写真 ・ : クヌギカメムシの産卵

凹凸のある樹皮の、凹部に産みつけています。(写真 は産卵中です)

### 参考

#### 写真 : クロスジフユエダシャク (雄)

撮影は昨冬、北摂にて

大きさは24-30mm、12月頃に雑木林の地表近くを飛んでいる姿を見かけます。

#### 写真 : クロスジフユエダシャク (雌)

撮影は昨冬、北摂にて

体長は15mmほどで、退化した翅は数mm程度の痕跡があるだけです。

#### 写真 : チャバネフユエダシャク (雌)

撮影は昨冬、北摂にて

体長は15mmほどで、翅の痕跡もないようです。フェロモンを発して雄を誘引します。











